

副 議 長 日程第1「一般質問」に入ります。

昨日に引き続き、事務局は録画の準備をお願いします。

それでは、一般質問を通告順に行います。受付番号第7号 石内浩君の一般質問を許します。登壇願います。

9 番 石 内 おはようございます。一般質問をいたします。受付番号第7号 質問議員、9番 石内浩。件名、町民サービスについて。

要旨、町は過去に例がない大事業が続くが、町民のきずなや住みやすさの観点から、以下の点につき、町の考え方を聞きたい。

(1) 20年ほど前の中学校体育祭では、校長名での地域住民への協力依頼が回覧されていた。西側フェンスの管理を含め、地域の協力、見守りが必要と思われるが。

(2) ロマンسカーの停車駅でなくなり、「ふじさん号」の利用客も少ない。沿線観光地のアピールや乗客増員キャンペーンなどの地元支援も必要ではないか。

(3) 松田町にとって必要である県立足柄上病院が、独立行政法人となって久しいが、現状の課題と成果は。

以上、よろしくをお願いします。

教 育 長 それでは、石内議員の御質問に順次お答え申し上げます。私からは、1点目の質問の松田中学校西側のフェンスの管理も含め、地域の協力、見守りについてお答えさせていただきます。

以前は、学校長から近隣のお住まいの方々に対しまして、体育祭前の練習時や当日の放送音、生徒の声、砂ぼこりなどの理解、あるいは当日に向けての校地内の環境整備への参加依頼、体育祭の生徒の見守りなどの協力依頼をさせていただいておりました。昨今、学校においては、体育祭だけではなく、さまざまな形や内容で、地域の方々への協力依頼をさせていただいていることがあると思います。また、中学校では令和3年度から全面実施となります新学習指導要領で、よりよい学校教育を通じて、よりよい社会をつくるという理念を学校と社会が共有し、社会と連携・協働しながら、未来のつくり手となるために必要な資質・能力を育む社会に開かれた教育課程の実現を重視しております。そ

の実現に向けては、組織的・継続的に地域・家庭・学校の連携と協働を深めていくことが大変重要であると言えます。

御質問、御指摘のとおり、学校教育活動の充実は、地域や保護者の皆様方の連携は不可欠であり、御理解と御協力をいただかなければ、教育目標の実現はあり得ません。町民のきずなや住みやすさにとっても、保護者、地域の皆様方の協力、見守りはとても重要なことでもあります。中学校においては、新生松田中学校になり、学校も地域との連携をより深め、地域に根差した開かれた学校づくりを推進しております。今後、予測困難な社会の急激な変化に対応できる質の高い教育の推進、地域とともに歩み続ける学校づくりを、一層進めてまいります。

西側のフェンスの管理についてですが、御質問のとおりかなり古くなり、破損している箇所も見られます。また、西側フェンスから住民宅の入り口、開閉式ネットではあります。このネット入り口から、ボールが入ってしまうということも学校から聞いております。今後、フェンスの整備方法及び管理につきましても、検討していきたいと考えております。

今後もぜひ、学校教育に対する理解と協力が得られ、地域、家庭と学校の連携が深めていけるように、御支援をお願いしたいと思います。

2点目、3点目の御質問は、町長から回答させていただきます。

町長 おはようございます。よろしく願いいたします。続きまして、2点目、3点目は私のほうから御回答させていただきます。

まず、小田急線新松田駅は、平成30年3月のダイヤ改正に伴い、ロマンスカーの停車がなくなりましたことは、御承知のことと存じます。その主な理由につきましては、お客様の利用実績として利用者の減少が続き、将来の状況を予測された結果、事業性やリスク、コストの面から取りやめになったというふうに向っているところでもございます。今、我々にできることは、日ごろから公共交通を利用して、みんなで乗り、支え、守り、育てることが必要ではないかというふうにも考えております。

そこで現在、松田町が連携を行い、取り組んでいる事業といたしまして、まずソフト事業につきましては、J R東海様との連携として、世界文化遺産の富

士山を生かしたさまざまなイベントなどの積極的な情報発信や、県鉄道輸送力増強促進会議や、県外の御殿場市などを初めとする10市町で構成されました御殿場線利活用推進協議会において、公式サイト「ごてんばせんネット」による各市町の地域資源を生かしたイベントや魅力発信事業、広域観光マップや沿線カレンダーの作成、写真コンテスト、また、ロマンスカー「ふじさん号」等の増発便に対する要望活動など、公共交通網の維持増進に向けて、利用増加を働きかけ、利便性を高めてまいっているところでもございます。

また、町では本年度、公民連携により、駅を中心とした交通案内所の充実を図るため、外国人対応や案内、休憩機能の充実についても取り組んでいるところでもございます。

こうした要望活動や施設の機能を高め、沿線の観光地と連携したイベントのPR強化や乗降増員キャンペーンについて、期間限定にて特急ロマンスカー「ふじさん号」の増発便を、JR東海様が独自で小田急電鉄様と連携して行っているため、町としてはさらなる連携協力を進め、特急ロマンスカー「ふじさん号」の利用客をふやして、増便につなげてまいりたいというふうに考えております。

また、観光PRにつきましては、近隣市町や地元町民とも連携し、地域の資源を生かしたハイキングイベントや、寄地域でのお茶摘みなどを含めた農業体験ツアーや、仮称ではございますが、御殿場周遊一日パスポートなどのお得感やサービスを演出するなど、お客様がリピーターとなって乗ってきたくなるよう、計画的に地域とJR東海様と相談させていただきながら、どのような連携がベターなのか、調査研究してまいりたいとも考えています。

このようなイベントを多く企画し、より多くの来町者の安全・安心な空間を確保するためにも、ハード整備といたしまして、新松田駅周辺環境の整備は、セットとして必要であるというふうに考えております。そのため、鉄道駅周辺の総合的機能の更新に向け、安全性や利便性の向上、中心市街地の活性化、魅力の創出等につなげるため、地権者や地域住民の皆様、JR東海様、小田急電鉄様初め関係諸団体と連携を取り、駅周辺整備の基本的な構想を計画し、交通の結節点としての役割をしっかりと果たしたく存じているところでもございます。

今後、松田町への交流人口や地域との多様にかかわる方々、いわゆる関係人口の増加は、定住促進を図っていく上で町に大きな強みとなりますので、交通の利便性を生かした取り組みは欠かせない条件と考えているところでございます。これまで以上に国・県及び神奈川県・静岡県両県の自治体と歩調を合わせ、また行政、町民と継続してさまざまな要望を掲げ、実現できるように取り組んでまいります。あわせて、地域公共交通を育てていくためには、多くの方々が公共交通を利用することで、環境対策や健康面においても重要な取り組みでございますので、まずは利用増加に向けた取り組みを、積極的に行ってまいりたいというふうに考えております。

次に、3つ目の御質問にお答えをさせていただきます。神奈川県立足柄上病院は、県西地域の中核的総合病院であり、高度専門医療、救急医療、災害医療、感染症医療などを担うとともに、地域の特性に対応した医療を提供していただいております。昭和25年に県立足柄上病院として発足し、平成22年4月に運営の自由度が増し、柔軟な対応が取れるよう、地方独立行政法人に移行され、地方独立法人神奈川県立病院機構神奈川県立足柄上病院となり、足柄上地域の医療環境や経営状況に応じた柔軟で弾力的かつ効率的な病院経営を行っております。

地方独立行政法人は、県が定める5年間の中期目標に基づき、具体的な実施計画を作成し、計画に沿って運営を行い、毎年度の業務実績評価と5年ごとの業務実績評価を受けておられます。足柄上病院より情報提供をいただいた内容につきましては、入院患者数等は、独立行政法人化前の平成21年度の入院延べ患者数が6万9,633人、外来延べ患者数が15万2,247人であったものが、平成29年度には入院7万4,812人、外来が12万8,681人、平成30年度で入院が8万740人、外来が12万3,589人となり、入院延べ患者数はふえているものの、外来延べ患者数は減少傾向にあるようでございます。

これは、この理由といたしましては、地域の中核的総合病院として位置づけられたことにより、患者はまず地域のかかりつけ医の診療を受け、必要に応じ、紹介状により受診する病院となったことと、今まで通院していた患者が高齢となり、通院が困難になり減少したことが主な理由のようでございます。一般の

病院では、高度な手術等を実施する診療科や患者の多い診療科等にシフトすることにより利益を上げることもできますが、足柄上病院の場合は、患者が少なくても地域に必要な医療を提供するため、利益が上がらず、病院単体では赤字経営となっておりますが、地方独立行政法人神奈川県立病院機構全体で支える体制となっております。病院としては、地域に必要な医療を継続的に提供し、特に地域の課題であるロコモティブシンドロームやフレイルなど、増加する高齢者の医療ニーズに沿った柔軟な対応が必要と考えているとのことでもありました。

私といたしましては、医療機器の更新や常勤の小児医療医1名を確保されるなど、足柄上病院も大変な努力をされている状況に感謝申し上げつつ、要望の多い産婦人科や小児科の医師の充実についても引き続き要望を行い、町はもとより、足柄上地域の住民の生命を守る大切な総合病院であり、災害時の拠点でもありますので、いつまでも存続していただけるよう、1市5町が連携協力し、県に対しても御支援の継続をお願いしてまいりたいというふうにも考えております。以上です。

9 番 石 内 丁寧な回答、ありがとうございました。特に、教育長のほうから学校の内容、詳しく調べていただきまして、ありがとうございました。最近、学校絡みの痛ましい事故が続いているということで、いわゆる地域との関係良化を図るためにということで質問させていただいてるんですが。先ほどの話の中にありました、校長名でのお願いの中にですね、いわゆる先ほど教育長から話がありました予行練習含めて2週間ぐらいの間、お騒がせしますと。大変詳しく調べていただいております。

ただ、それを受けましてですね、地元で何年前からですかね、5月に一斉に側溝掃除というのをやってるんですが、それを拡大しまして、中学校の体育館の前の側溝。あそこまで、いわゆる消防団のホースを継ぎ足しましてですね、消火栓から全部あそこきれいにして、体育祭の前までにきれいにしておこうというようなことの活動も進めています。あそこの道の雑草を取るとか、そういうことでいい関係つくってきたと思いますのでね、ぜひ、その辺の理解もしていただきたいと思うんですが。

それと、先ほどネットの話がありました。確かに、あのネットも四、五十年以上だと思えますね。もう、さびも出てますのでね。ぜひ、これは新しい新生中学校ということもありますので、更新のほうをぜひお願いしたいと思えます。特に、今困ってるのはですね、あそこに今、教育長のほうからも話がありました移動式のネットで、住民の人が閉められていけば、それを開けて通行するということになってるんですが。あそこに、何ていうんですかね、重りで鎖を垂らしてるんですよ。それが、下のグレーチングプレートに入っちゃって、なかなか取れなくなったりですね。中の住民も若いうちは皆さん余り文句も言わない。今は文句出ることもほとんどないんですけどね。ただ、そういうもう体力的に大変な時代を迎えてる人たちも多くなってきましたので、ちょっと何かやっぱり考えていただきたい。

それと、ボールの話なんですけど、最近になって特にそうなんですけど、野球とサッカーの、何ていうか、スペースの取り合いかもわからないんですけど、西側でやっぱりサッカーがやる。あれを飛び越えて、やっぱりサッカーのボールがかなり入ってくるんですね。そうすると、傷が車につくとか、ガラス割るということは、今まで一つもなかったと思うんですけど、一々生徒が謝りに来る。この前たまたま私のところに、先生が私の車にぶつかったということですね。ボールが。直接謝りに来られて。こういうことがいいのかどうかね。生徒と先生が直接頭を下げに来る。こういう実態というのは、やっぱり考えざるを得ないと思うんですけど、その辺について見解があれば言っていただきたいと思えます。

教 育 課 長 ただいまのネットフェンスにつきましては、校長にも聞き取りをしました。そういったことがあったということ、教育委員会のほうでも報告を受けております。早速ですが、現場を見させていただきまして、対応…どのように対応できるかということを考えていきたいと思っております。また、生徒と先生が謝りに来るという実態も聞いております。ネットの原因でボールが入るということもございますので、繰り返しになりますが、対応について、現場をよく見させていただきまして、検討していきたいと思っております。

9 番 石 内 かなり微妙な話なので、対応をしていただければね、そういう解決できると思えますので、ぜひうまいアイデアを出していただいて、お願いしたいと思

ます。

もう一つですね、いわゆるグラウンドが町の場合は開放的で、よその町からうらやましがられてると思うんですよ。確かに、警備員が入られまして、日中はその警備員の影響だと思うんですが、生徒のあいさつもすばらしいし、通学路もしっかりしてるし、私はすばらしい成果が上がってると思うんです。ただ、最近はないんですが、以前は夜間、自転車が入ったりオートバイが入ったり。私ども若いときは追っかけて出したこともあるんですけどもね。御存じのように、周りがみんな年取ってきましてので、今これからできるかなといったことは大変難しいんですけども。今はこの10年間ぐらいは聞いておりません。ないと思うんですが。ただ、1件怪しかったのは、一番近いうちの人から聞いた話なんです。朝、明け方ですね、3時か4時の間に十数人の人が来て、ソフトボールの試合をやったらしいですね。朝の明け方7時ごろになって終わって、ああ気持ちよかったとみんな帰ったというんですけど。えーっと思ったんですけども。それがいいかどうかは別として、やっぱり昼間はともかく、夜間ですね、警備がどうなのかなと思うんで、その辺はやっぱり警備員つけるとか何とかじゃなくて、今、警備会社でそういう警備の仕方も常駐しなくてもできると思いますしね。カメラをつけるとか、何か方法があるんじゃないかと思うんですけども。いずれにしても、そういう実態を学校当局、町として捉えられていたのかどうか、まずそれを確認したいと思います。

教 育 課 長 夜間の1件と、朝のそういったソフトボールで利用してるということは、現実的に捉えておりませんでした。ちょっと学校等にもですね、聞き取りいたしまして、あと、御近所の方にもそういった実態をよく聞き取りしながら、学校でどういうふうなことができるか、または教育委員会としてどういうふうな指導をしていくか。持ち帰りまして、御近所の皆様にも安心して生活できるようにしていきたいと思います。

9 番 石 内 学校の問題については、そういうくらいでお願いしたいと思うんですが。いずれにしても、グラウンドそのものもですね、大分土の状態が悪くて、きのうも雨で半日ぐらいグラウンド使えないんですよ。今、学校、先生方がすごく一生懸命やって、すぐもう土を入れたりなんかされてるんですけども、ちょっ

とあれは土の交換も早めにやってもらって。よく私言うんですけども、昔、町民大会とって、各地域が全部あそこに集まって大会やってたんですけど。そのときは前日がどしゃ降りでも翌日パツともうできたんです。そのぐらい水はけがよくて、土もよかった。水はけの問題については、以前よりも相当町側でもやっていただいて、排水の関係はよくなっているはずなんです。それでも一旦雨が降ると、ほとんどすぐは使えない状態。そんなことがありますので、グラウンドの土の交換の問題についても、ぜひ検討の一つにしていただきたい。これについて、御回答よろしく申し上げます。

教 育 課 長 水はけの問題ですが、昨年度、校庭前のグレーチングの中をまとめて清掃した経過がございます。また、その後についても、経過を見守りながら清掃を行っておるところでございます。グラウンドの土につきましては、入れかえになりますと多額な経費もかかることとございますが、こういう意見といたしまして、検討の中の一つとして行ってまいりたいと思います。

9 番 石 内 学校の関係については以上ですので、ぜひ、よろしくお願ひしたいと思ひます。

2番目のロマンスカーの件なんです、先ほどもほとんど回答いただいたので、これ以上のあれはないんですが。私、今ちょっと週2回ぐらいロマンスカー使って新宿まで行ってるんですが、「ふじさん号」ときたま乗るんですけど、ほとんど乗客いないですね。これは、政策上、小田急がどういう形で「あさぎり号」から「ふじさん号」にしたのかどうかもわからないんですけども。聞くところによると、山梨県側では富士登山鉄道をつくろうと。富士山へ登るための鉄道をつくろうというような話も持ち上がってるようですね。「ふじさん号」にしたというのは、やっぱり富士山が見えるから「ふじさん号」にしたんだろうけど、御殿場まで行く間にはほとんど見えないんですよ。そんな形でどうなのかなということがあつたんですけど。先ほどの町長の、確かに今いろいろ乗車率を上げるための活動は、各町でもやってると思うんですが。ぜひですね、もっと呼び込みとか、交流人口をふやす、また「ふじさん号」に乗るための施策をですね、地元でつなげていっていただきたい。そうしないと、またロマンスカーそのものもなくなっちゃうんじゃないかなと危惧するわけなんです

が。

それともう一つは、ぜひ、今度駅周辺の開発のときにですね、新松田と松田、これ松田駅に統一していただきたい。これは要望でしかないんですが。今、新宿行ってますとですね、急行電車が小田原駅と新松田駅と同じぐらいの本数出てるんですね。あれっと思うんです。これは小田急の運営の仕方なのかと思うんですが。かなりそういう意味で、新松田の名前が売れてます。ただ、やっぱり松田で売り込みたいので、町田の例じゃないんですけども、昔は各駅停車は新松田と新原町田行だったんですよ。そんなことで、やっぱり松田町ということであるとすれば、駅は松田で統一する。そんなことも将来的に考えていただきたい。その辺についてももしあれば、お答えしていただきたいと思います。

政策推進課長

それでは、まず1点目なんですけれども、まず「ふじさん号」ということで、名称が「あさぎり」さんから「ふじさん」のほうに変わった便もごございます。今ですね、9本が定期的に出ております。JRさんのほうにですね、直接この利用状況を聞いたところなんですけど、平成28年度から、ほぼ横ばいだというような状況は今聞いてるところでございまして。ただですね、やっぱり乗り育てるということで、まず乗ってもらうことが、まず第一と。行政としてできることはですね、要望してるよということだけではなく、それを皆様のほうに、今後将来に向かってどのようになっていくかというのを徹底的に周知して行って、やっぱりみんなで乗り育てていくということで努めていきたいと。またですね、小田急さんのほうが、御殿場のアウトレットのほうにですね、大きな宿泊施設とか温泉機能をですね、平成32年、令和2年度までに完成をし、そことうまく連携をしていくということがございますので、そうした観点で富士山…世界遺産の富士山と、そういうものをつなぎながらですね、松田町も徹底的に周知をし、皆さんで乗って育てていきたいというふうに考えております。

またですね、2つ目の駅名につきましては、平成26年度にですね、企画課のほうで直接小田急さんにそういう要望を言ったときがございまして。駅名を変えるのは幾らぐらいかかるのかとか、そういう…そのときはちょうど100周年記念のときにですね、そういう提案をしていこうということがあったので、そのとき数千万円の金額がかかるということでは言われたんですが、今後もですね、

やっぱり大きな一つの、今提案させていただいたものはですね、真摯に受けとめて、今後の駅名も含めてですね、利用者の増加に向けて努めていきたいというふうに考えているところでございます。以上です。

9 番 石 内 ありがとうございます。ぜひそういう方向で進めていただきたいと思います。

3つ目にいきます。上病院の件について、町長からかなり詳しい説明がありましたので、ほとんどもう再質問はないんですけども。独立行政法人そのものについて、ちょっと確認させていただきたいんですが。中期計画、それとそういうものについての、何ていうんですか、公開。そういうものが、一応条文上出てるんですけども、その内容が見たことないんですよ。パソコンの中で引っ張り出してみても、理事とか役員がほとんどお医者さん絡みしかいない。地元からのこういうものに入るというか、そういうあれがないのかなと思うんですけどもね。そういうのを含めて、確かに今、上病院が苦しい経営というか、一生懸命やられてるということはわかると思いますし。ただ、県立病院で総合病院として残っているのは、上病院だけなんでね。地域性…この地域性もあって、ぜひこれだけは残してもらわなきゃいけない話です。これは先ほどの町長の話の中にもありました。そういう意味も含めてですね、もう少し、何ていうかな。内容について、協力すべきは我々が協力できるような内容が出てくるような、何かそういうものが欲しいなという気がするんですが。その辺について、どうなんですかね。自治体として、そういうものに入り込める余地があるのかどうか。それだけちょっと確認したいと思うんですが。

子育て健康課長 まずですね、中期目標とか、そういうのはホームページのほうで載っております。あと、業務実績評価書とかいうのも載っております。役員につきましては、選出方法とか、そういうのはちょっとうちのほうではわからないので、ちょっとお答えできないんですけども。それとですね、上病院としては、地域のために診療科をなくさないようにして頑張っているんで、各近隣の自治体の方にも御協力はしていただきたいという話は伺ったんですけど、具体的に何をしてくれというのは、特にそのときはお話はございませんでした。すいません。

9 番 石 内 その程度の答えしか出ないのはわかりますので、今回については、そういうことで終わるんですけども。ぜひ何かの機会にですね、この辺のいわゆる地

元の声が届くという言い方が当たってるかどうかわからないですが、何かそういう総意が病院側に伝わるような内容のものが出てくるような、できるようなね、ものがあってもほしいと思いますので、その辺についてもしチャンスがあれば、よろしくお願ひしたいと思います。

病院の関係について一つ提案なんですけど、先ほども町長の話の中で、災害時のセンターというか、そういう意味での支援の一助になるという話があったんですけど。2号館について、ちょっと開業医のある人から言われたことがあるんですけど。あそこ災害時の収容所、それにしてもらえないかと。そうすれば、ほかの開業医もあそこに飛び込んでいって、一緒になってお手伝いできるんじゃないかと。こんな提案されたことあったんですけど。これも非常に難しい話だと思うので、何かのチャンスがあれば、そんなことをどこかで伝えていただきたいと思うんですけど、それについていかがでしょうか。

子育て健康課長 災害時の医療につきましては、上医師会とのお話では、自分のところの診療所が無事であれば、そこで診療するという形になっていますので、上病院の2号館を自分のところの診療所が…診療できない方が集まって、そこで治療をするような施設として位置づけられるかどうか、ちょっとまた相談させていただきたいと思います。

9 番 石 内 最後になりますけれども、上病院の…先ほども出た、データで取り上げると、寄附を募っているんですね。これは先ほども町長の報告がありましたように、大変財政上難しいので、これはしょうがないと思うんですけど。そういうのが伝わってきてないので、もし本当にそういう実態であれば、地元としてある程度のことを考えていかなきゃいけないんじゃないかと思うし。それが、金を出すことがいいのかどうかは別としてですね、それやっぱり一つには、実態というか、そういうものがある程度わかるような形の中で、そういう仕組みがつくれていければいいと思うんですけども。大変難しい取り組みになると思うんですけども。その辺で何かあればお聞きしたいと思うんですけど、いかがでしょう。

子育て健康課長 上病院に確認しましたところ、財政が苦しいから寄附をお願いしますということで宣伝を載せてるわけではなく、常時、寄附受け付けてますよという形の

お知らせとして載せているということでした。それと、あとはですね、できれば町、近隣の市町村が一緒になってですね、県のほうに上病院の存続について働きかけていただきたいというお話はございました。

9 番 石 内 時間もあるんですけども、一応回答として私の望むような話が出てきており
ましたので、これにて終わらせたいと思います。ありがとうございました。

副 議 長 以上で受付番号第7号、石内浩君の一般質問を終わります。